

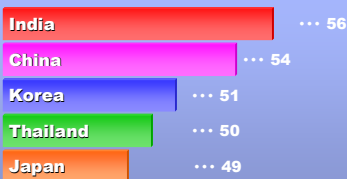
区切り聞きによるリスニングの指導 ～実践とその効果～

1. 研究の動機

- 日本人の英語力はアジアにおいて下位に位置し、リスニング力、文法力、リーディング力いずれも低い傾向にあるが、特にリスニングの分野が弱い(斎藤 1998)。
- 大学入試センター試験にリスニングテストが導入され、リスニングの効果的な指導法が必要とされている。

(資料) 日本人のリスニング力の実態

Listening Score (Based on TOEFL from July 1998 to June 1999)



2. 研究の背景

■ 日本人の学習者が的確なリスニングができない要因

1. 音声知覚力

- 音素の識別ができない
- 音声変化についていけない
- 話す速度についていけない

3. 文法力

- 文法力が知識としてとどまっている
- 統語構造の分析が間にあわない
- 文法力が予測に結びつかない

2. 語彙力

- 語彙不足で対応できない
- 知っていても聞き取れない
- 語彙の検索が間に合わない

4. 日本語の介在

- 音声信号を語の単位に分割
- 逐語的な日本語への置き換え
- 情報処理に時間がかかる

1) リスニングのプロセス

Anderson (1995)



Andersonのモデルから

- 日本人のリスニングによる内容理解を改善するためには、音声言語を知覚した後の認知過程における処理を促進するための指導が必要である。
- 音声入力としていったん知覚された内容を心的表示として蓄え、解釈の修正や理解の補正などを繰り返して行う認知的行動に習熟させる。

2) ポーズと区切り聞き

- ・ ポーズを入れた指導は学習者のリスニングによる理解度を増す(Suzuki 1991)。
- ・ リスニングによる内容理解に最も強い影響を与えるのはポーズの頻度数である(河野 1994)。
→パッセージ中に置かれたポーズは認知処理の時間を確保することにつながり、リスニングによる内容理解の改善に効果があると考えられる。

ポーズと区切り聞き

- ・ ポーズの時間帯を活用した音声処理の速度を向上させるための具体的な指導方法
→ **区切り聞き (phrasal listening)**
ポーズを利用して英文を意味のまとまりごとに区切り、自然な日本語にこだわる必要はなく、英文シンタックスに沿いながら瞬時に原文の情報理解を積み重ねる(瀧澤 2002)。

区切り聞きを応用したリスニング指導

- ・ 区切り聞きのトレーニングを行うことにより、日本人のボトムアップ的な、複雑な情報処理を必要とする完全な日本語による内容理解が、意味ごとに理解される原文の情報(Andersonの「心的表示」)による理解へと改善され、リスニング・プロセスにおける音声情報の認知的処理の速度が向上すると考えられる。
- ・ 学習者に時間的余裕が生まれ、前後の理解と関連づけたり予測しながら柔軟に修正や補正をするトップダウン的な活動が可能になり、リスニングによる内容の理解度が増すと考えられる。

3. 研究の方法

- ・ 研究の目的
「本研究の目的は、区切り聞きを応用したリスニングの指導が、日本人英語学習者のリスニング能力向上へ与える効果を実証的に検証することである。」
- ・ 被験者
某看護系大学2年生48名

区切り聞きによるリスニング指導の概要

- ①タイトルから内容を予測する
- ②ナチュラルスピードで聴く(1回)
- ③キーワードの発音と意味の確認をし、もう1度ナチュラルスピードで聴く(1回)
- ④ゆっくりスピード(ポーズあり)で聴く(2回)
- ⑤T-Fクイズを行う。
- ⑥英文スクリプトの「対訳」の完成とクイズの答え合わせを行う
- ⑦ゆっくりスピード(ポーズあり)でスクリプトを見ながら聴く(2回)
- ⑧ゆっくりスピード(ポーズなし)で内容を確認しながら聴く(2回)

4. 結果

リスニング能力別事前・事後テスト結果
(英検準2級・G-TELPリスニング問題各10問、max=20)

	リスニング上位		リスニング中位		リスニング下位	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
N	12	12	23	23	13	13
Mean	12.75	14.14	8.87	11.61	5.92	10.46
S.D.	1.69	2.53	0.74	2.97	1.38	3.12

3(リスニング上位・中位・下位)×2(事前・事後テスト)の
2要因分散分析の結果

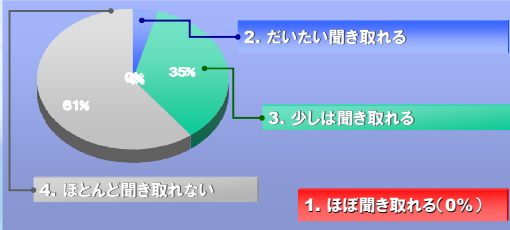
- リスニング能力と事前・事後テストの主効果が有意で、リスニング能力とテストの交互作用が有意傾向
- 多重比較 事前: 上位>中位>下位
事後: 上位>中位, 上位>下位, 中位・下位に有意差なし

結果のまとめ

- 5回のトレーニングにより、中位・下位グループはリスニング力を有意に伸ばした。
- 上位グループの伸びは有意傾向
- 事後において中位と下位グループの平均点に有意差がなくなり、特に下位グループにトレーニングの効果が大きかったと考えられる。

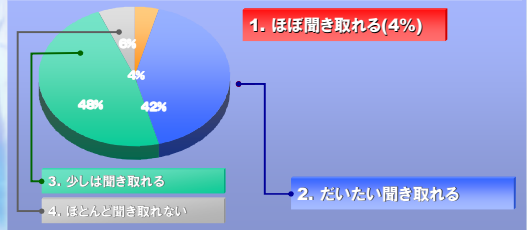
自己評価によるアンケート結果

Q. ナチュラルスピードは



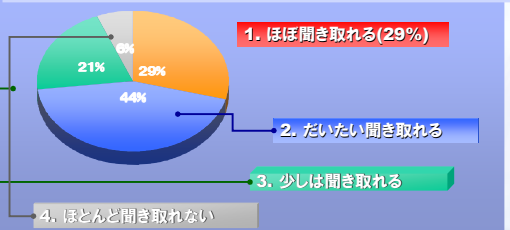
自己評価によるアンケート結果

Q. ゆっくりスピード(ポーズなし)は



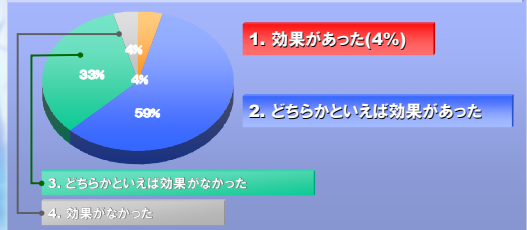
自己評価によるアンケート結果

Q. ゆっくりスピード(ポーズあり)は



自己評価によるアンケート結果

Q. リスニング・トレーニングは



5. 考察

- 区切り聞きを応用したリスニングの指導は、日本人英語学習者のリスニング能力を向上させる上で有効な手段の1つであると考えられる。
- 区切り聞きのトレーニング用教材として、適切な発話速度について研究を行う必要がある。
- トレーニングの効果を学習者の"segmentation"との関連において評価することが必要である。

引用文献

- Anderson, J.R., 1995. *Cognitive Psychology and its Implications*. NY: WH Freeman.
- 河野守夫 1997. 「リスニングのメカニズムについての言語心理学研究」『ことばとコミュニケーション』第1号. 英潮社.
- 斎藤栄二 1998. 「第3章 生徒のリスニング能力を伸ばすための9つの視点」『英語授業成功への実践』東京: 大修館書店.
- Suzuki, J. 1991. "An empirical study on a remedial approach to the development of listening fluency: the effectiveness of pausing of students' listening comprehension ability." *Language Laboratory*, 28.
- 瀧澤正己 2002. 「語学強化法としての通訳訓練法とその応用例」『紀要』第26号, 北陸大学.